

令和7年度 学校図書館推進校 実践報告

新潟市立下山中学校

図書館教育部

1. 下山中学校生徒と図書館の実態

令和7年度 蔵書冊数：12,673冊

貸出冊数：3,550冊

一人当たりの貸出冊数：10.8冊（令和7年12月末現在）

当校は、1学年119名、2学年112名、3学年96名の計327名である。学級数は1学年4、2学年4、3学年3、特別支援2となっている。教室棟2階（3学年と同じ階）に位置しており、すべての学年において比較的来館しやすい環境である。一方で、来館生徒は限られており、本や読書が好きな生徒、学習をしたい生徒が主に利用している。

図書委員会の活動が活発であり、学級文庫の選定、おすすめの本紹介、本で出会った素敵な言葉紹介など幅広く活動を行っている。

2. 目指す図書館の姿

(1) 読書センターとして

本を読む楽しさに気付いたり、興味を持って本に接したりする生徒を育成する図書館

(2) 学習センター・情報センターとして

生徒が自ら学習に取り組む場所の提供、書籍の探し方や著作権、引用の仕方等について情報活用能力育成の観点から、情報を発信する図書館

3. 今年度の取り組み

(1) 「読書センター」として

①オリエンテーションの実施（国語）

これまでの1年生のみに実施していたオリエンテーションを、全校生徒を対象に行うこととした。

1年生は授業で図書館に来館して実施、2・3年生は国語の授業中に各クラスへ司書が行く形で実施した。日本十進分類法の見方を学び本の探し方を伝えた。また、図書館の使い方や過ごし方の決まりを確認したり、昨年度リクエストにより購入した本を紹介したりする機会とした。

②「朝読書週間」の実施

年3回、1週間の朝読書週間を設けた。読書する本は、図書館で借りた本とすることで、一人単位の貸し出し数は確保することができた。実施週間前に国語科の授業内で本の貸し借りをを行い、借り忘れがないように連携を行った。



③図書委員会との連携

・「転入された先生のおすすめの本」紹介

委員長が今年度転入職員に依頼をし、転入全職員からおすすめの本、理由、似顔絵を描いてもらった。一覧に張り付けたものを図書室前掲示板、生徒玄関前に掲示し、多くの生徒が立ち止まって見ている場面が見られた。また、図書館内では実際に本を展示し、貸し借りができるようにした。当校に蔵書がない場合には、新潟市立図書館を利用したり、新たに購入したりして対応した。その結果、多くの生徒が興味を持ち、実際にその本を借りる生徒もいた。

・ライブラリーアワー

図書委員一人一人が必ず1回「自分のおすすめの本」をお昼の放送で紹介した。放送後はポスターにまとめ、上記の転入職員のおすすめの本と合わせてノートにしたものをカウンターに掲示した。

・学級文庫の選定

昨年度通年固定の学級文庫だったのに対し、今年度は図書委員が月1回学級文庫の入れ替えを行った。図書委員が好きな本、学級で読んでほしい本など、読み手を意識して選定することで、図書委員も選ぶ意欲が高まり、学級の生徒も学級文庫を手にする頻度が増えた。



・テーマ展示

図書館入口に、館内で不要になったラックを使い、季節や行事、地域に関するテーマで本を展示している。司書と図書委員が選書、飾りつけを行った。



・本で出会った素敵な言葉紹介 【生徒会 人間関係改善の取組の一環】

生徒会が主催する、人間関係改善の取り組みの中で委員会として「本で出会った素敵な言葉」をGoogle Formにて募集した。本を読んでうれしい気持ちが広がってほしい、悲しいときには少しでも心が温かくなってほしいという思いを込めて行った。その中から図書委員が選び、クラスに1枚手書きのポスターを掲示することで共有することができた。また、その後はiPadを活用しCanvaやKeynote、ロイロノートなどで電子ポスターを作成し、紙面印刷したものを小学校に届けることにした



・その他の取組みとして、図書館ビンゴ・しおり作成・1冊貸し出し券配布・長期休み前貸し出し、など、図書館に足を運ぶきっかけとなるような取り組みも多く行った。

(2) 「学習センター」として

①夏休み期間の学習場所として開放

夏休み期間中、学習の場所を提供することを目的に開放を行った。8月19日～22日の4日間で、午前中は静かに学習する個人の時間、午後は数名のグループで相談しながら学習してもよい時間と分けて行うことで生徒が自分の学習スタイルに合わせて選択することができた。(保護者含む利用者の累計は20名)

②授業とのかかわり

・国語科 1年生 【辞書を使った意味調べ】

1年生での辞書を使った意味調べは新潟市の情報活用体系表の中に組み込まれている。インターネットではなく、辞書を使って調べることで周りの言葉の意味や使い方にも関心を寄せる生徒の姿が見られた。

・国語科 2年生 【読書活動 ブックトーク】(光村教科書単元「いつも本はそばに」)

「班ごとにテーマを設定。それぞれがテーマに沿って選書し、ブックトークのシナリオやスライドを作成して発表する。」という活動を行った。授業の初めに、司書が「雨」をテーマにブックトークを行い、本の選定や実際にブックトークをする際のアドバイスをしたり相談に乗ったりした。授業では、教科担当が示したテーマや班で自由に設定したテーマで選書して行った。

テーマの例 青春 空 中学生 夏 など

・英語科 2年生 【おすすめの本紹介】(三省堂教科書「Lesson2 Fun with Books」)

単元末課題として、日本語を勉強するALTにおすすめの本を紹介するというライティング活動が位置付けられている。そこで「教師の友人である、日本語を学んでいる外国人に、おすすめの本を紹介しよう」というテーマでポスターを作成、ビデオ撮影を行った。図書館で借りた本を紹介する生徒もいたため、蔵書がある本を中心に司書と教師が選んだポスターを図書館に掲示した。保護者面談期間には、控室として図書館を使う保護者が鑑賞する場面もあった。



③ALT とのかかわり

ALT が勤務する日の昼休みは、「お話会」を開催した。英語の短いお話を聞き、内容を確認したり、日常的なコミュニケーションをとったりした。スタンプカードを活用し、継続して参加した生徒にはALT から初めての英文の手紙がもらえるというワクワク感もあり、多くの生徒が参加した。



(3)「情報センター」として

①多文化共生コーナーの設置

生徒会が中心となって取り組んでいる多文化共生学習について、「多文化共生ってどういうこと?」「どんな考えがあるの?」などの様々な視点から書かれた本を展示している。



②新聞記事の掲示

新潟日報が掲載している「まいにちふむふむ J」や下山中学校に関する記事、中学生に読んでほしい記事を図書館前に掲示している。同世代や下山中学校について載っているものについては特に生徒の関心が寄せられ、足を止めて読んでいる生徒が見られた。



4. CS と地域と学校パートナーシップ事業

保護者や地域に呼びかけ、ボランティアの方々と夏休み期間中に蔵書点検を行った。例年2月に実施していたが、長期間図書館を開けることができなくなるため、生徒の来館機会を確保するためにも時期を変更した。特に活動場所の限られる冬期間は夏などと比較しても多くの生徒が図書館を利用することができている。今年度は5名のボランティアの方から参加いただき、終了することができた。また館内の表示や掲示物を修理したり新たに作成したりしていただくなどの協力をいただいている。

5. 小中連携

当校は1小1中のため、9年間を通して密に連携を取って指導をすることができる。そこで、以下の2つについて連携して図書館指導を行うこととした。

(1) 図書館利用について

中学校では全学年を対象として利用についてのオリエンテーションを行い、1年生に対して小学校の図書館の使い方と照らし合わせながら行うことで、図書館がどのような場所なのかと意識付けをすることができた。

(2) 本で出会った素敵な言葉ポスターの掲示

人間関係改善の取り組みで実施したアンケートをもとに、図書委員が小学生に向けて電子ポスターを作成し、紙面印刷したものを小学校で掲示する予定である。本を通して小学校と中学校がつながる体験として位置付けていく。

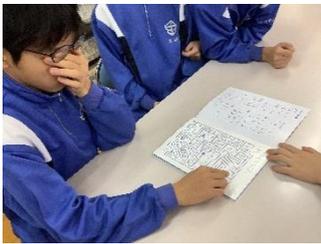
(3) 図書委員会（中）・ブック委員会（小）の連携

・小学校で取り組んでいる「1冊多く借りられる券」を中学校でも継続して使用することができるようにしている。小学校で数十枚貯めた生徒も中学校で使用することができ、図書館利用を楽しむことができている。

・小学生の手作りリーディングトラッカーをプレゼントしてもらった。中学生用に行間を調整し、図書館カウンターに「ご自由にどうぞ」と設置することで、気軽に試すことができた。

6. 新潟市読書バリアフリー推進計画

「新潟市読書バリアフリー推進計画」に基づき、館内に「りんごの棚」を設置した。併せて、リーディングトラッカーやリーディングループを準備し、図書館だよりなどで周知に努めた。



〈点字図書の迷路に挑戦する生徒たち〉

7. 成果と課題

『成果』

今年度の大きな成果として読書センターの充実があげられる。年度初めに全校生徒を対象に図書館利用オリエンテーションを行ったことにより、図書館での過ごし方だけでなく新しい本を探したり学習したり様々な生徒が図書館に来るきっかけづくりをすることができた。さらに委員会活動を活発に行い、委員一人一人が「本」や「読書」について全校に発信することで、その友達やクラスメイトの関心が高まったように感じる。学習センターとしては、受験シーズンとなり昼休みに学習する3年生の姿を見て、下学年も問題集などに取り組む様子が見られる。

また、1小1中であることを生かし、図書館として小学校と中学校の壁を越えて児童生徒の関わりをつくりだすことができた。

『課題』

情報センターとしての機能を高めていくために、書籍の探し方や引用指導、著作権についてオリエンテーションを更に充実させる必要がある。年度初めのオリエンテーションだけでなく、授業での探究学習の開始の際や図書館だよりの発行など、折に触れて情報発信を行うことで定着と向上をはかりたい。また、情報活用能力を系統的に指導するために、技術家庭科との連携もはかっていきたい。そのために、年度初めの教科部会に図書館部が参加し、見通しを持って教科と連携していく。